

(Q3) 女子学生さんに工学研究科(大学院)へ進学してもらうためのアイデア

1	M	・研究をすることで、研究本来の楽しさを知るだけではなく、研究へのアプローチが色んなことに役立つこと・応用できることを伝える。	ご意見をありがとうございます。 ・(A3M01) (M) 研究内容などでもっと社会貢献につながることを強調していきたいと思います。
2	M	・院にいく女性がいることを伝える。	・(A3M02) (M) 年度初めに行っている顔合わせのための談話会等で話せればと思いますが、皆さんの意見を聞きつつ、さらなる機会を設けることも検討していきたいと思います。
3	M	・進学して本当に難しくて、大変です。だから、できるだけ頑張ってください。	・(A3M03) (委員会) 学部勉強は、昔の発見・発明を学ぶので簡単です。しかし、大学院の研究は、世界中でまだ誰も知らない発見・発明をすることです。発見・発明とは、言われてみれば簡単ですが、言われなければ気が付かず、難しいです。そして、世界で一番最初にそれに気が付いた人が偉いのであって、それを知っていても偉くはありません。新しい発見・発明ができれば、社会貢献ができますので、頑張って研究をしてください。
4	A	・修士進学生と学部卒業生の就職先および勤務年数の統計(女子学生のみ) 院まではいったものの、結局何年で仕事を辞めるのかもしくは辞めずにすむのか、ということが知れたら良いのでは？おそらく研究はもちろんのこと就職のことから見据えて進学する学生が少なからずいるはずなので、上記のようなリアリティのある統計があると嬉しい	・(A3A01) (A) 建築学専攻学生の就職先に関しては、男女で有意差はなく、就職活動等で性差が問題になった事例もこれまで把握していません。自信を持って就職活動を行ってほしいと思います。一方、学部生や院生における女子学生の割合が2割〜4割であることを考えると、建築学科・専攻の女子学生に限った就職先の公開は、容易に個人の特定に繋がりにくいことに注意せねばなりません。そのためHPなどでの公開は難しいですが、就職担当の先生(担任)を通じて個人的に問い合わせてもらえれば、問題のない範囲で情報提供ができると考えます。また、卒業後の勤務実態を把握するには、卒業生の自主的な協力が不可欠です。そしてこれらを大学が統計的に把握するのは現実的には難しい問題です。将来的にアンケートなど調査を行うことがあれば、是非協力をお願いします。
5	J	・男子学生に進学してもらうためのアイデア同じ	・(A3J01) (J) ご意見ありがとうございました。
6	P	・大学院卒業した後就職活動にサポートする。	・(A3P01) (P) 1. 在学時の就職活動に関しては、4年生と同様に大学院生に対してもサポートしています。事例が少なく、就職先に関する男女差を統計的に議論することはできませんが、女子大学院生が某大手自動車メーカーに就職できたことを考慮すると、男女差はないと考えています。 2. 卒業後の就職活動に関しては、その年の就職担当、もしくは研究室の先生に気軽に相談してください。 また、キャリア支援センター https://www.mie-u.ac.jp/life/career/index.html や、三重TLO http://www.mie-tlo.co.jp/ では、卒業生に対してもキャリア支援を行なっています。

S: 総合工学コース

M: 機械工学コース・学科・専攻

E: 電気電子工学コース・学科・専攻

(Q3) 女子学生さんに工学研究科(大学院)へ進学してもらうためのアイデア

- C: 応用化学コース・分子素材工学科・専攻
- A: 建築学コース・学科・専攻
- J: 情報工学コース・学科・専攻
- P: 物理工学科・専攻
- D: 大学院博士後期課程